

T01

テストガイドライン

第 1.2 版

石油化学工業協会

情報通信委員会 CEDi 小委員会

実装支援ワーキンググループ

改定履歴

版数	改定内容	改定日	改定者
1.0	初版	2005/05/31	JFE システムズ(株)
1.1	<p><改修点1></p> <p>2 テストフェーズ</p> <p>1 疎通テスト→1 HTTP/Sテストへ変更。</p> <p><改修点2></p> <p>3 疎通テスト→3 HTTP/Sテストへ変更。</p> <p><改修点3></p> <p>自組織情報・取引先情報のトランスポートプロトコルの (BizTalk サーバ) を削除。</p> <p><改修点4></p> <p>4 RNIF レベルテスト</p> <p>【取引先間設定情報】の項目に以下の2項目を追加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GlobalPartnerClassificationCode ・GlobalSupplyChainCode <p>→B2B製品によって設定の確認が必要になる為</p>	2007/02/22	JNT システム(株)
1.2	<p><改修点></p> <p>2 テストフェーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に「T03 技術情報交換シート」を取り交わしておくことを推奨します」を追加。 <p>3 HTTPS テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HTTPS テストの範囲外の RNIF テストに関する記述を4. RNIF テストへ移動。 ・「T03 技術情報交換シート」を取り交わすに変更ならびに図を削除。 <p>4 RNIF 疎通テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「T02 テストテンプレート」を参照に変更ならびに図を削除 		

※ 改定者の企業名は、あいうえお順です

目次

1	はじめに.....	1
2	テストフェーズについて.....	2
3	HTTP/S テスト.....	3
4	RNIF 疎通テスト.....	4
5	ビジネスシナリオテスト.....	5

1 はじめに

本書は、Chem eStandards 標準を利用した企業間での B2B システム導入について、システムの本番運用の前に企業間で行うテストの方法について提案するものであり、Chem eStandards の規約ではない。

2 テストフェーズについて

B2B システムのテストは下記の 3 段階で行うことを推奨します。

また、テスト際し、事前取引先と「T O 2 テスト用テンプレート」および「T O 3 技術情報交換シート」を取り交わしておくことを推奨します。

1. HTTP/S テスト

HTTP/S レベルでの疎通を確認するのが目的となります。すべてのテストに先立って HTTP/S テストを行い、インフラレベルでの疎通検証を行います。

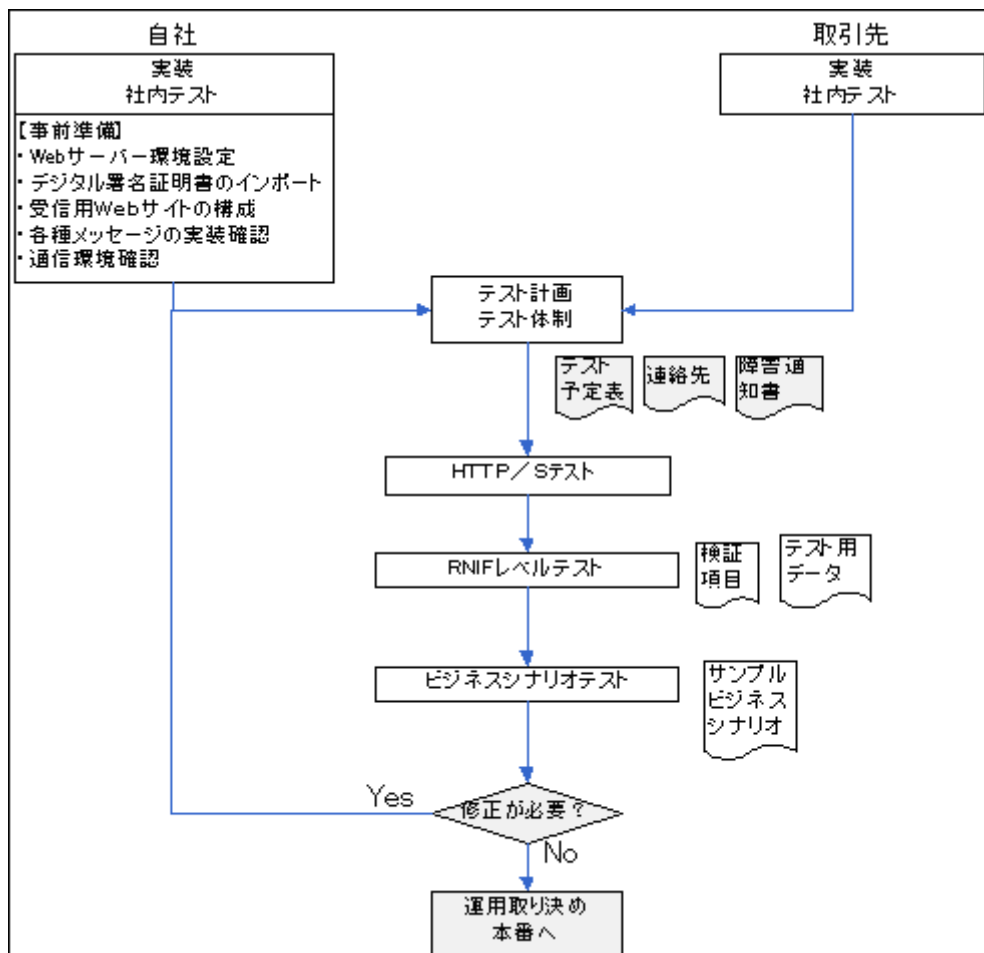
2. RNIF レベルテスト

RNIF レベルでのテストになります。ACK/NACK の送信、リトライ回数の確認、ドキュメント構造検証不正時の動作確認などのフレームワークレベルでの検証項目を設定し、テストを行います。

3. ビジネスシナリオテスト

フレームワークレベルテストが完了した後に実際にバックエンドシステムと連携してのテストを行います。正常時の検証、異常時の検証を行い、メッセージの再送などを含め、システム全体のテストと運用テストを行い、システムが運用可能なものかどうかを検証します。

以下に、テストフェーズの流れを示します。



3 HTTP/S テスト

HTTP/S テストは、HTTP/S レベルでの疎通を確認するためのテストで、すべてのテストに先立って HTTP/S テストを行い、インフラレベルでの疎通検証を行います。

HTTP/S テストは、開発機による内部テストの終了後、取引先と行います。取引先との HTTP/S テストを行う前に、本番運用サーバー機を構成し、取引先との設定項目も整理しておく必要があります。

概要

- HTTP/S テストのための必要項目を整理します。
- HTTP/S テストでは、HTTP/S レベルの疎通テストを取引先との間でテストします。

[補足]

取引先との外部 HTTP/S テストに先立ち、本番運用サーバー機と自社のテストサーバー機の間で、内部 HTTP/S テストを行う場合もあります。（本資料には記載しておりません。）

必要項目の整理

取引先と「T O 2 テスト用テンプレート」および「T O 3 技術情報交換シート」の下記項目について、情報を取り交わします。

- 取引先情報（I P アドレス、疎通テスト用 URL）
- HTTP/S テスト担当者、連絡先

その他設定

HTTP/S テストを行うには、その他にも設定が必要になります。

必要項目については、各サーバーで異なりますので、ご確認ください。

例)

- Web サーバー環境設定
- デジタル署名証明書のインポート
- 受信用 Web サイトの構成
- 開発時に作成したチャネルやポート
- 通信環境確認

HTTP/S テスト方法

- html ページの表示確認を実施します。
取引先より指定された html ページにアクセスし、表示されることを確認します。
表示できない場合は、取引先と協力して、問題点を解決して下さい。

4 RNIF 疎通テスト

RNIF 疎通テストは、RNIF レベルでのテストになり、ビジネスプロトコルの疎通確認テストのことです。ACK/NACK の送信、リトライ回数の確認、ドキュメント構造検証不正時の動作確認などのフレームワークレベルでの検証項目を設定し、テストを行います。

テスト例は「T02 テストテンプレート」を参照。

概要

- ビジネスプロトコル疎通として、テスト用のプログラムを使用し、取引先とメッセージの送受信を確認します。
- 取引先と調整し、開始側および応答側の両方をテストします。

必要項目の整理

取引先と「T02 テスト用テンプレート」および「T03 技術情報交換シート」の下記項目について、情報を取り交わします。

- 取引先情報（IP アドレス、テスト用 URL 等）
- RNIF 疎通テスト担当者、連絡先
- コード情報（DUNS 等）
- テストで使用するメッセージ情報（CIDX バージョン、E41Order Create、E42OrderResponse 等）
- セキュリティ／コンテンツ情報（デジタル署名の要否、エンコード種別等）

RNIF 疎通テスト方法

下記にテスト例を記載致します。

● 開始側テスト

- 1) テスタープログラムを起動します。
- 2) チャネル取得－開始側スタート により、メッセージを送信します。
 - 自社のサイトのシステムで、ログを確認
- 3) 取引先サイトで、以下を確認します。
 - メッセージの到達
 - イベントログで、正常実行ログ表示およびエラーログがない
- 4) 取引先と協力して結果を評価します。異常がある場合は、原因をとり除き、再度テストを実施します。

● 受信側テスト

取引先と調整し、テストメッセージの到達を待ちます。

- 1) 自サイトの イベントログ および サーバーの稼働を確認します
- 2) 2)の稼働を確認し、続けて以下を確認します。
 - メッセージの到達
 - イベントログで、正常実行ログ表示およびエラーログがない
- 3) 取引先に通知し、結果を評価します。
- 4) 時間が経過しても、2)が確認できない場合は、取引先に通知し、原因をとり除いて、再度テストを行います。

5 ビジネスシナリオテスト

ビジネスシナリオテストは、R N I F 疎通テストが完了した後に実際にバックエンドシステムと連携してテストを行います。

正常時の検証、異常時の検証を行い、メッセージの再送などを含め、システム全体のテストと運用テストを行い、システムが運用可能なものかどうかを検証します。

テストシナリオは個別に検討することになります。